

行政視察参加報告

(会派・創世)

樋野 智之

<視察目的>

中海架橋早期実現する安来・米子議員連盟の今年度の活動事業として、架橋建設先進事例を視察し、今後の市・県・国に対しての要請の参考にすべく計画をしました。

山口県下関市豊北町に完成しています角島大橋の視察を計画しました。

議員連盟 13 名「安来市議会議員 6 名、米子市議会議員 7 名」

【安来市議会議員参加者】

議員連盟会長 遠藤孝氏、議員連盟副会長 金山満輝氏、

議員連盟事務局長 樋野智之、作野幸憲氏、中村健二氏、岩崎勉氏

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
2019 年 11 月 20 日	山口県	県庁 土木建築部道路建設課	角島大橋橋梁整備事業
2019 年 11 月 21 日	山口県下関市	角島大橋	現地視察

<視察概要報告>

1. 山口県

- 対応者：山口県議会事務局 議事調査課 課長補佐
山口県土木建築部道路建設課 建設班主査 他多数
- 場 所：山口県庁舎 10 階漁業調整委員会室
角島大橋①海士ヶ瀬公園
②角島灯台公園

●概要：

事業名	過疎地域市町村道代行改築事業
路線名	豊北町道特牛角島線（共用後は一般県道角島神田線）
事業実施地域	豊浦郡豊北町大字神田字原から同町大字角島字辻ヶ畑の間
事業期間	平成3年～平成12年（平成3年は町事業） 角島大橋は平成5年9月6日に着工し、平成12年11月3日に開通。
事業費	約149億円
橋梁建設費	約132億円
事業概要	延長／2,080m（うち橋梁部分1,780m） 幅員／橋梁部5.5（6.5m）、取付道6.0（11.0m）
道路規格	第3種第4級、車線数 2車線
設計荷重	B活荷重 設計速度 40km/h
計画交通量	共用10年後約1,000台（ピーク時約3,000台）
航路部	航路高18m、航路幅70m
橋種	PC7,8,6,5径間連続箱桁橋 3桁間連続鋼床版箱桁橋

角島は、本州最先端、山口県下関市豊北町の西北部約1.5kmの響灘に位置する3.8km²、人口は（H31.4時点）約700人の島です。

角島へは建設前までは、渡船による交通が主であり、完成により陸路で繋がった。当初は県道でなく豊北町道として建設された（過疎代行道路整備事業として山口県が発注）こともあり、道路構造令の第三種第四級で設計が行われた。この為、最高速度は40Km/hに制限されており、強風時には一般車両が通行止めになる。北長門海岸国定公園内に位置することから、橋脚の高さを抑さえ、周囲の景観に配慮した構造になっている。また架橋ルートを選定にあたっては、本土と角島の間位置する鳩島に橋脚を建設する案も検討されたが、自然景観保護の観点から島を迂回する現在のルートが採用された。このような取組みが評価され、平成15年には「土木学会デザイン賞2003」の優秀賞を受賞している。完成後はその景観から山口県の新たな観光名所となっている。テレビのCM、特に自動車のCM（レクサス・GS450h、三菱・ギャランフォルティス、スズキ・スイフト、日産・ノートなど）のロケ地として多く採用されている。





●考察

この度の視察は、中海架橋早期実現する為に先進事例を研修する目的である。中海架橋は昭和 61 年から鳥取県議会・島根県議会に陳情採択、平成 3 年に建設促進協議会結成、平成 6 年に建設ルート案採択された。平成 6 年に鳥取県からの事務局移管により、島根県土木部内に設置されたが本協議会については現在まで会議開催が行われていない。

角島大橋建設について、地元島民の児童からの年賀状作戦から動き出したと説明、改めて我々の中海架橋を実現に対し行動の見直しも含めて、再検討も必要と感じた。先ず協議会を両県に再開頂く為の行動の広がりとして、安来・米子市の青年会議所等全団体とのコラボレーションを如何に取っていくか、市執行部と地元県議会議員と共同歩調の仕組みを築くか需要である。中海市長会も、平成 24 年に中海架橋建設連絡協議会の早期開催について、島根・鳥取知事に対し要望活動され。平成 25 年に近年の道路整備・計画・中海圏域の状況変化を踏まえ、将来交通量推計を行われ、事業の費用対効果について米子市と共同で検討調査を実施した。積算計画は、安来インター線の国道 9 号からの取付道路を含む中海架橋（4 車線）は 2,8 km、直接の架橋部分は 0.6 km で費用対効果は江島大橋同様に 5,000 トンの船が米子港に入港が条件で試算した約 358 億円と算出している。しかし現在は米子港にそのような船の入港は無く、2 車線での試算を再度実施すべきと考えている。

安来市・米子市議会として平成 29 年 2 月 25 日に『中海架橋早期実現する安来・米子議員連盟設立総会』を開催。会員数 33 名。平成 29 年に伊木米子市長、近藤安来市長に要望。溝口善兵衛島根県知事、平井伸治鳥取県知事に連絡協議会の再開と早期架橋の実現の為の要望書を提出した。

県境付近の交通渋滞は両県の経済活動の大きな損失の他、境港に寄港する大型クルーズ客船や米子空港国際線のインバウンド対策や地震自然災害の避難路線の確保、そしてそれに係る島根原発からの避難誘導など他面に効果が見込める中海架橋であると考えます。また中海架橋の役割りは重要課題。山陰両県がいかに連携するかによって、この圏域（約 66 万人の人口集積）の発展拡大が見込めます。この度の視察した角島大橋の架橋部分の距離に対し、中海架橋の距離は半部であり、大型船舶も通らず、片側 1 車線からして平成 25 年の推計試算の再度検討すべきと思いました。事業化に向けて議員活動から商工会議所・青年会議所・両市民を如何に参画いただき、総パワーで進める道も模索すべきと感じた。

以上